

平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 10

主要事業名	スポーツ事業の開催と機会提供及び市民スポーツの支援					作成日	H28.6.28	
						担当課名	スポーツ推進課	
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス	管理経費	
事業期間	単年度	年度繰返し		期間限定		建設事業	その他	
						年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ	
重点目標	4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進	基本目標	1 スポーツ先進のかしま
体系項目	(1) スポーツの振興	基本政策	1 スポーツを核としたまち
個別施策	① スポーツ団体の育成支援 ② 地域スポーツの展開と情報の発信	基本施策	12 スポーツ活動の推進 スポーツ交流の推進
根拠法令等	スポーツ基本法		

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	生涯スポーツ社会の実現に向け、各種スポーツ大会及び健康づくりスポーツ教室等の開催、スポーツ団体の育成・支援、スポーツ関連情報の提供などの市民スポーツ活動の機運を高める事業展開を図る。
目的（事業の目指すところ）	市民の誰もが、それぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、いつでも、どこでも楽しめる生涯スポーツ社会の実現（成人の週1回以上スポーツ実施率50%以上を目標）
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 各スポーツ大会、教室等の開催 スポーツ団体に対する支援 健康づくりスポーツの開催、支援 スポーツ関連情報の提供
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催決定を契機として、国を始め、国民、団体、企業等が「スポーツ」への関心が高まっている。 茨城県では、平成31年茨城国体を契機として、スポーツに対する関心意欲を更に高揚させ、健康・体力の保持増進と競技力向上に取り組まれている。 市民からスポーツ環境（施設・事業）の充実についての要望が多い。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
	成人スポーツ実施率	%	26	35	40	45	50
	スポーツ実践者数（施設利用者）	人	507,657	520,000	535,000	550,000	565,000

投入コスト	全体計画		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	ト伝武道（柔道・剣道）大会		900	900	900	900	900
	サッカーフェスティバル大会		1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
	ビーチサッカー大会		2,506	2,606	2,606	2,606	2,606
	駅伝大会		5,451	5,452	5,452	5,452	5,452
	スポーツ振興支援補助		5,350	5,350	5,350	5,350	5,350
	健康づくりスポーツ教室		150	150	150	150	150
	スポーツナビ情報発信		192	130	130	130	130
	合計		16,349	16,388	16,388	16,388	16,388
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(助成金)		6,086	6,609	4,361	4,361	4,361
	一般財源		10,263	9,779	12,027	12,027	12,027
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		5	5	5	5	5
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		3	3	3	3	3

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:スポーツ事業の開催と機会提供及び市民スポーツの支援

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①シンボルスポートの推進 【比率: 25%】	<ul style="list-style-type: none"> サッカーフェスティバル 年1回開催(実行委員会2回, 監督者会議2回) ト伝武道大会 年1回(剣道・柔道種)開催 	<ul style="list-style-type: none"> サッカーフェスティバル 93チーム(前年)以上の参加 剣道76チーム(前年)以上の参加 柔道81チーム(前年)以上の参加 	<ul style="list-style-type: none"> サッカーフェスティバル年1回開催(実行委員会2回, 監督者会議2回) ト伝杯武道大会(剣道・柔道)の開催(実行委員会4回) 	<ul style="list-style-type: none"> サッカーフェスティバル 4部門 106チーム参加 剣道 77チーム参加 柔道 83チーム参加 昨年度以上の参加チームがあり市外チームとの交流ができた 	各実行委員会(団体)と連絡を密にするなど連携を強化し, 参加チームの増加に努めた。	個別事業実績評価点: 22 [課題] 夏休み期間中の大会開催のため, 他事業と重複する可能性が高い。
②広域大会の開催 【比率: 30%】	<ul style="list-style-type: none"> ビーチサッカー大会 年1回(一般の部, 小学生の部新設)開催 駅伝大会 年1回開催 (新規)ビーチラン大会(スポーツツーリズム)の体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ビーチサッカー参加チーム数 一般 12チーム 小学生(新規)12チーム 駅伝大会参加チーム数 188チーム ビーチラン大会(プレ大会開催, 名称公募) 	<ul style="list-style-type: none"> ビーチサッカー大会 年1回(小学生の部新規開催, 実行委員会1回) 駅伝大会 年1回開催(実行委員会3回, 監督者会議1回) 平成28年ビーチラン大会開催に向け, プレ大会年1回開催, 名称公募, 先進地視察 	<ul style="list-style-type: none"> ビーチサッカー 一般15チーム, 小学生12チーム参加 駅伝大会 162チーム参加 ビーチラン大会の開催に向けて, 各関係団体と連携した運営体制の整備を行った。 	ビーチサッカーと他のイベントとを組み合わせることで相乗効果もたらされ活性化が図られた。また, 新たなビーチスポーツ(ビーチラン)の取り入れ, 広域大会の充実を図ることができた。	個別事業実績評価点: 26 [課題] 大会へのリピーター獲得のためのイメージアップ取り組み。
③スポーツ団体の支援 【比率: 15%】	<ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市体育協会補助金交付 鹿嶋市硬式野球(リトル・リトルシニア)協会補助金交付 	<ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市体育協会補助金 支援団体数 344団体 鹿嶋市硬式野球協会補助金 支援団体数 3団体70名 	<ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市体育協会補助金交付 鹿嶋市硬式野球(リトル, リトルシニア)協会補助金交付 	<ul style="list-style-type: none"> 鹿嶋市体育協会補助金 支援団体数 338団体 鹿嶋市硬式野球協会補助金 支援団体数 3団体70名以上団体の運営支援ができた。 	アマチュアスポーツの経済的負担軽減を目的に補助金支援と施設利用料の減免を合わせ団体の支援を行った。	個別事業実績評価点: 9.8 [課題] サッカー等人気のあるスポーツと不人気のスポーツで登録者人数の開きがある。
④健康づくりスポーツ 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> 10地区公民館(各種健康づくりスポーツ) 年随時開催 スポーツセンター前「ふれあい広場」(グラウンドゴルフなど利用)を新規開放 	<ul style="list-style-type: none"> 10地区50回1,000名の参加者 	10地区公民館 平均で年4.5回健康スポーツ教室を開催	10地区56回1,242人の多くの参加があり, 健康増進を図ることができた。	活動向上のため, スポーツ推進連絡協議会の中で情報交換をし, 地区活動につなげた。	個別事業実績評価点: 20 [課題] 地区によって活動の回数に開きがある。
⑤スポーツホームページ(スポーツナビ)のリニューアル 【比率: 10%】	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ関連情報を提供するホームページ開設, 運営(リニューアル含む) 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルすることで, スポーツナビを一層見やすく, 使いやすいものとする。(閲覧件数: H26 約21,000件) 	<ul style="list-style-type: none"> 各スポーツ大会情報及び市民スポーツや健康づくり事業の推進を図るための情報提供 トップ画面の変更 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ別閲覧や絵, 表などを使い感覚的に見やすくなった。(閲覧件数: 約26,000件) 約20%増加 	今回改善された。スポーツ種目別の検索がダイレクトにできる, スポーツ団体から書き込みが出来る, SNS活用で広がりができる。	個別事業実績評価点: 10 [課題] 新しい情報の更新をスピード感をもって行う。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に, 事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ, 個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	87.9	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政, 他市での取り組みなどを考慮し, 事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 第三次鹿嶋市総合計画で成人の週1回以上スポーツ実施率50%以上を目標に掲げているが, 平成26年度アンケート調査で26%となっている。しかし, スポーツ事業への参加状況やスポーツナビの閲覧件数などが増加しており, スポーツに対する関心は高い。					
充実, 現状維持, 見直し, 休止・廃止	充実	理由	スポーツは, 健康増進, 地域コミュニティの形成・活性化などに様々な効果が期待されており, 今後もニーズが高いと考えられる。また, 東京オリンピック等の決定や茨城国体(鹿嶋市サッカー競技会場)を契機にスポーツへの関心が高まってきている。			
課題	継続する場合, 現状認識を踏まえた課題について記入してください。 平成26年度アンケートでは, スポーツを実践できない理由として「仕事・家事が忙しい」と回答した方が64%。また「1年間スポーツを実施していない」と回答した方が全体の約40%という結果であった。アンケート回答者は30~40歳の年齢層が全体の80%であり, 働き盛りの年齢層の方が「運動できていない」という状況である。					
改善策	課題に対する改善策について, 期限や具体的な数値などを記入してください。 平成26年度アンケートの中で, 60%の方が「週1回以上運動をしたい」という結果であり, 運動意欲があるものの時間的余裕と機会が少ない方が多い。また, 運動(スポーツ)を実践している方のうち約60%はウォーキングやランニングなど個人でできる種目が多いことから, 個人の時間帯にあった運動方法や地区で行われている身近なスポーツイベント等の情報提供の充実を図る。					

平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 11

主要事業名	各地区まちづくりセンター活動支援，芸術祭・市美術展覧会等の開催					作成日	H28.6.23
						担当課名	中央公民館
事業の性質	法定受託事務	自治事務（義務）	自治事務（任意）	○	市民サービス	管理経費	
					建設事業	その他	
事業期間	○	単年度	年度繰返し	期間限定	年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ	
重点目標	4	スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進	基本目標 4 人が輝く鹿嶋
体系項目	2	芸術文化活動の振興と文化財の保護	基本政策 8 互いに協力し合うまち
個別施策	1	地域に根ざした文化活動の創造	基本施策 2 コミュニティ活動の活性化
根拠法令等	—		

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	地域におけるまちづくり事業（公民館活動事業）の展開にあたり，各地区まちづくり委員会へ事業を委託し，企画から実践まで地域住民主体の事業を実施する。また各地区まちづくり委員会とまちづくりセンターで組織する「まちづくり連絡協議会」において各地区まちづくり委員会間の情報交換や関係者向けの研修会を開催する。 また，定例的に芸術祭，市美術展覧会等を芸術文化団体と共催する。
目的（事業の目指すところ）	各地区まちづくり事業については，市民主体の特色ある事業の実施により市民満足度の高いものをめざすとともに，種々事業を通じて人材の育成を図り，協働のまちづくりを推進する。 芸術文化に関する展覧会は，市民の日頃の創作活動を発表する機会とし，今後の創作意欲の醸成を図るとともに芸術文化を身近に親しむ鑑賞機会として開催することにより，市の芸術文化の振興に寄与する。
目的達成のための手順	・センターにおける大枠の仕様書により，地区まちづくり委員会毎に事業計画が策定され，主体的な活動が実践される。 ・まちづくり委員，センター長，主事の階層別及び一堂に会した研修会を開催する。 ・美術展覧会等は，実行委員会を組織し活発な意見交換しながら運営にあたる。
国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	市民協働のまちづくり・生涯学習活動を推進する地域の拠点施設として公民館は設置されているが，職員と予算の削減が危惧されるところである。 また，芸術文化は，作者，鑑賞者それぞれのニーズを満たす環境づくりを推進していく必要がある。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
	研修会参加者数	人	1,004	1,025	1,050	1,050	1,050
	来館者数（美術展等）	人	3,518	3,525	3,550	3,575	3,600

投入コスト	全体計画		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	まちづくり委員会事業		10,300	10,800	10,800	10,800	10,800
	まちづくり連絡協議会事業		500	400	400	400	400
	市美術展覧会		400	400	400	400	400
	芸術祭		187	250	250	250	250
	市民ギャラリー企画展		66	70	70	70	70
	合計		11,453	11,920	11,920	11,920	11,920
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		11,453	11,920	11,920	11,920	11,920
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		7	7	7	7	7
	その他職員（再任用（短），嘱託職員等）		3	3	3	3	3

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:各地区まちづくりセンター活動支援、芸術祭・市美術展覧会等の開催

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①各地区まちづくりセンターでの事業の実施 【比率: 80%】	<ul style="list-style-type: none"> 地区まちづくり委員会(10委員会)へ公民館事業を委託。 まちづくり連絡協議会研修会及びセンター長会議、地域活動支援員会議、主事研修会等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地区まちづくり委員会主催事業内容(反省会における評価等) 研修会等参加人数及び各まちづくり委員会事業へのフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり委員会主催事業各地区まちづくり委員会毎に15~20事業 研修会等 センター長会議9回 地域活動支援員会議11回 主事研修会10回 まちづくり研修会・交流会 まちづくり講座3回 まちづくり連絡協議会役員会4回 ほか 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり委員会主催事業については、前年度の反省を踏まえながら創意工夫により実施され好評を得た。また、事業を通して、仲間づくり・コミュニティの醸成が図られた。 公民館運営や地域課題について関係者の共通理解が図られた センター長会議 129人 地域活動支援員会議 59人 主事研修会 300人 まちづくり研修会・交流会 110人 まちづくり講座(3回) 300人 まちづくり連絡協議会役員会124人 ほか 	<ul style="list-style-type: none"> 一部まちづくり委員会主催事業においては、幅広い参加者をめざし、運営スタッフに青少年層(中学生)を加えるなど、工夫しながら事業を実施した。 地域活動支援員(再任用職員)においては、より効率・効果的な各館の運営及び委員会事業の展開について、適宜調整してきた。 研修においては、まちづくり施策の立案や展開の手法、課題となる分野を市職員や各種団体を含め広く参加を呼びかけまちづくり市民大会へ繋がるよう体系的に研修した。 	<p>個別事業実績評価点: 72</p> <p>[課題] 単一年度のイベント型事業がメインになりがちであるが、中長期的視点による地域課題の発掘及びその解決へ向けた取り組み(地区社会福祉協議会ほか公益活動団体との連携など)が必要。</p>
②芸術祭及び市美術展覧会の開催 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化に親しむ機会の確保並びに活動者の育成 市美術展覧会の開催 芸術祭の開催 文化フェスティバルの開催 市美術展覧会入賞者展の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントの開催並びに出品点数及び来観者数(市美展, 芸術祭, 文化フェスティバル等) 	<ul style="list-style-type: none"> 市美術展覧会の開催(絵画ほか 計4部門 6月30日~7月5日) 芸術祭の開催(書ほか計10部門 10月20日~10月25日) 文化フェスティバルの開催(10連盟合同発表会 3月1日~3月13日) 市美術展覧会入賞者展(8月25日~8月30日) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の芸術文化活動の発表の場を定期的に開催することにより、芸術文化活動の振興が図られた。なお、出品数は前年並み来場者数は前年を上回った。 市美術展覧会 193点 1,003人 芸術祭 367点 964人 文化フェスティバル1,250人 市美術展覧会入賞者展301人 	<ul style="list-style-type: none"> 市民と行政の協働により、実行委員会を組織し、各部門の責任者の下に、搬入・搬出等の運営の効率化、展示レイアウトの改善が図られた。 	<p>個別事業実績評価点: 13</p> <p>[課題] 運営スタッフ(実行委員等)の高齢化が進んでいるため、新たな人材の発掘・育成が必要である。</p>

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	<p>具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。</p>		合計点数	84.6	<p>A: 合計点数が80点超</p> <p>B: 合計点数が50点超80点以下</p> <p>C: 合計点数が50点以下</p>	総合評価結果	A
実績	<p>社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民主体の事業が実施され、住民相互の交流によるコミュニティの形成・地域の連携が図られたほか、研修会の開催により課題等の確認ができた。 芸術祭や市美術展覧会の開催により、出品者の創作活動への意欲を増進させるとともに、市民の芸術に親しむ機会を提供できた。 						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり事業については、地域住民が主体的な役割を果たしながら取り組まれており、それを支援する職員も研修等によりスキルを身につけ、それぞれの役割分担の下、事業が展開されている。 市内で開催される市美術展や芸術祭等は、市民が身近に芸術文化に触れる場となるとともに、出品者においてもモチベーションを高める機会となっている。 				
課題	<p>継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント、趣味・教養に偏りがちな事業構成から、地域課題等に対応した事業の展開が必要。 文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや後継者の育成等が求められる。 						
改善策	<p>課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館活動については、地域課題(特に福祉分野)の対応を念頭に、地域福祉推進委員や地区社協との連携した事業展開を見据え、組織的な改編について、まちづくり委員会や社会福祉協議会と調整を図りながら整理していく。また、実施事業においては、新しい人材の発掘・育成を意識しながら業務を遂行する。 各種会議等を通じて、文化協会や活動団体へ後継者の育成を呼びかける。また灘塾等を含めた団体の連携を図り、団体のコラボ・人材の活躍の場の情報提供等により、団体並びに事業の活性化を図る。 						

平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 12

主要事業名	神野向遺跡保存事業					作成日	H28.6.27	
						担当課名	社会教育課	
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費		
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	建設事業	その他		
					年度から	年度まで		

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
重点目標	4	スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進		基本目標	4	人が輝くかしま	
体系項目	(2)	芸術文化活動の振興と文化財の保護		基本政策	7	学び楽しむまち	
個別施策	②	伝統文化の保護と継承		基本施策	5	文化・芸術の振興	
根拠法令等				文化財保護法			

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	神野向遺跡（鹿島郡郡家跡）は、奈良時代から平安時代の鹿島郡の郡役所跡であり、大溝で囲まれた倉庫群（正倉院）や回廊で囲まれた郡庁建物が発見され、『常陸国風土記』にも記載されており、全国的にも珍しく貴重な遺跡として、昭和61年8月4日に国の史跡に指定されている。 日本古代史研究上でも重要な遺跡である鹿島郡家跡を史跡公園として整備し、体験学習や社会教育的な場所として活用しながら、歴史的遺産として後世に残すために保存整備及び活用を図る。
目的（事業の目指すところ）	史跡公園として整備し、郷土学習や体験学習の場とし、市内外の人たちが鹿嶋市の歴史に触れる場として、発掘調査を進めながら、保存整備、活用を行っていく。また、遺跡内容の把握のため確認調査、発掘調査を行っていく。調査成果を史跡整備及び土地公有化の資料として活用していく。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の保存・整備のために公有化 ・鹿島神宮を含めた一体的な保存と活用 ・効果的な公開手法の考察、検討 ・市の社会教育振興計画や都市計画等への位置づけ
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	鹿島郡郡家跡は、奈良時代に編纂された『常陸国風土記』に記載された古代鹿島郡役所跡であり、鹿島神宮とその摂社である沼尾神社、坂戸神社とともに、「鹿島神宮境内附郡家跡」として国の史跡に指定されている。地方の郡家跡としては他に類がない回廊で区画された郡庁、大溝で囲まれた正倉や500点以上の墨書土器が出土した厨等の遺構が確認されている。その重要性を周知公開し、用地の効果的な活用が求められている。また近年、史跡に隣接している斜面地の崩壊が進んでおり、早急な対応が必要である。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度 (実績)	28年度 (予定・見込)	29年度 (予定・見込)	30年度 (予定・見込)	31年度 (予定・見込)
		史跡公有化	%	0	0	0	98

投入コスト	全体計画		27年度 (決算額：千円)	28年度 (予算額：千円)	29年度 (計画額：千円)	30年度 (計画額：千円)	31年度 (計画額：千円)
	事業経費	公有財産購入費				0	16,000
史跡整備検討委員会経費			325	458	458	458	
購入用地維持管理費			897	1,297	1,297	1,297	
基本計画策定			0	0	0	0	90,000
学術発掘調査			2,000	2,000	2,000	2,000	
実施設計策定							10,000
整備工事費							
	合計		3,222	3,755	3,755	19,755	116,000
財源内訳	国県支出金		1,000	1,000	1,000	13,800	
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		2,222	2,755	2,755	5,955	116,000
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		1	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		3	3	3	3	3

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:神野向遺跡保存事業

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①史跡公有化 【比率: 30%】	神野向遺跡(鹿島郡家跡)の公有化を進め、史跡整備計画の推進を図る ・史跡指定面積:73,607㎡ ・史跡内の土地の公有化(1,512㎡)	・史跡の公有化を進めるため、未増地買地の地権者との話し合いを行い、地権者の意向を確認する。	・史跡内の土地の公有化(1,512㎡)のうち、未買地の地権者との交渉	・2件の土地所有者と話し合いを実施し、どちらも買上げ希望の意向を確認した。	地権者の自宅へ足しげく訪問し、地権者の要望を聞き、柔軟な対応を心がけた。	個別事業実績評価点: 20 [課題] 年々地価も下がり、交渉が難しくなっている。地権者の要望にどのように応えていけるか、県や国とも協議を進めていく必要がある。
②史跡整備計画 【比率: 70%】	有識者からなる史跡整備検討委員会を定期的に開催し、史跡整備の計画を策定する。	・史跡整備検討委員会の開催(年3回) ・史跡整備基本計画の協議	・史跡整備検討委員会を3回開催し、史跡整備基本構想の内容を精査した。 ・国や県とも情報を共有し、整備の方向性の検討を行った。	・史跡整備検討委員会を開催し、整備基本計画の内容の協議を進め、史跡整備に向けた計画が進展した。	史跡整備検討委員会を開催し、様々な意見を聞くとともに、他市町村の計画も参考にし、史跡整備の計画を進めた。	個別事業実績評価点: 70 [課題] 基本計画を進めるにあたり保存活用計画の策定が必要になった。コンサルタントに依頼する必要と、地形測量の課題が上がり予算の確保が課題となっている。
【比率: %】			評価:	評価:	評価:	個別事業実績評価点: [課題]
【比率: %】			評価:	評価:	評価:	個別事業実績評価点: [課題]
【比率: %】			評価:	評価:	評価:	個別事業実績評価点: [課題]

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	89.5	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 検討委員会で協議された史跡整備基本計画は資料の充実などを図り、委員などから様々な意見を取り入れることが出来た。							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	貴重な歴史遺産として国指定史跡になっている鹿島郡家跡を、今後保存整備活用していくため、事業を継続していく必要がある。					
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 公有化は96%まで進んでいるが、地価が年々下がっており、地権者の要望に応えることが難しくなっている。また史跡への追加指定の要望も上がってきているので、今後の史跡整備について、県、国と協議をしながら進めていく必要がある。そのほかに保存活用計画策定の課題も出てきたため、計画を見直す必要がある。							
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 史跡内の地権者については、現状を理解してもらい、地道に交渉を続けていく必要がある。保存活用計画を策定するにあたり、今後の基本計画、実施設計の基礎となる資料作りを行い、速やかに史跡整備が行えるようにする。							